

暦の上では立冬を迎え、今朝は「障がい者と共にある主日礼拝」です。私たちの身近な方々のハンディキャップに、神様の守りがあることを祈りましょう。また、支えておられるご家族、福祉、地域の方々の祝福を祈りましょう。

力強いイエス様

「神を捨てることは、何も怖くない。しかし、神様に見捨てられたと感じる時、恐れと不安に襲われる」という言葉を見つけました。いつも優しいイエス様のイメージがありますが、実はイエス様は私たちをトレーニングするコーチでもあります。

イエス様は「誘惑に陥らないように、祈りなさい」と弟子たちに命じられました。歩くこと、休むこと、遊ぶこと、眠ること、そして祈ること。どれも、子どももできる簡単なことです。しかし、正しく継続することは殆どの方ができません。健康を害して、やっと多くの人はウォーキングを始めたり、心身のバランスを崩して、やっと休息や睡眠の大事さを理解したりします。魂の救いを得ることも、いつでもできる、自分は大丈夫、と多くの人は思っています。でも、神の愛すら信じられないという手遅れの状態も、残念ながらあります。日々、祈り続けることは、私たちにとって、真っ暗な嵐の中で吹き飛ばされることなく、救いに至らせる、大切な働きです。祈りは、神様の愛を確かめ、自分の歩む道を照らします。イエス様は、私たちを救おうと、誘惑に負けず、祈り続けなさい、と私たちを励ましています。

御心のままに

励ましのイエス様は、同時に、ご自身の苦しみを隠さないお方でした。人間は、弱みを見せることを嫌がります。しかし、イエス様は逆でした。苦しみもだえて、血が滴るような汗を流して、心を注ぎ出す姿を、弟子たちの前でさらけ出したのです。それを抜きにして、神様のご計画は、実現しなかったのです。

障がい者と共に歩む、というテーマを心に留める時、「取りのけることのできないもの」というイエス様の祈りが、一層心に響きます。「障害があるから、一緒にはできない」という線引きは、自分の意志で、神への信頼を、断ち切る態度です。理由は山ほどあるからです。しかし、イエス様は、「しかし、私の願いではなく、御心のままに」と祈られました。神様の愛への信頼が、自らの意志を乗り越えているのです。

結果は、やはり、十字架刑の判決、弟子の裏切り、無惨な死、サタンの高笑いでした。ところが、そこで終わりでは無かったのです。それは通過点に過ぎませんでした。罪の贖いが完成し、主イエスはよみがえられたのです。御心が実現しました。

取り除けてほしい杯は、私たちの中にもあります。私たちは祈らなければなりません。御心は、主イエスと同じ道を辿る人を通して、成し遂げられるのですから。